

事務事業名	いがしらリゾート農業拠点施設（観光いちご園等）整備事業				担当	産業部 農政課 農業振興係		
政策名	3 「にぎわいづくり」～まちの活力アップ！～				☐ 総重（総合計画重点事業） ☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 総新（総合計画新規事業） ☐ 戦新（総合戦略新規事業）		
施策名	1 農業の振興							
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 毎年度実施（開始年度 令和2 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠								
予算科目	1.一般会計	6.農林水産業費	1	4				
予算科目								
予算科目								
事業概要	井頭リゾートエリアを観光交流拠点と位置付け、多様な観光資源を有効活用し、関係施設が連携を図りながら、将来にわたり多くの人々に選ばれる魅力あふれるエリアとなるよう、プロジェクト推進課で各種事業を進めている。 この中で、あく里っ娘や、井頭観光いちご園周辺をアグリゾーンとして、令和2年度に策定した整備基本計画に基づき、観光いちご園等農業拠点整備を行うもの。 ○主な導入機能（計画抜粋） ・観光いちご園の農場拡大 ・あく里っ娘の機能拡充 ・プロモーションエリア整備 ・いちごシーズン以外の体験コンテンツ（収穫体験園等）整備 導入時期等は、井頭周辺エリア（南側エリア）を所管するプロジェクト推進課と連携を図りながら検討。 ○経過 令和2年度 井頭周辺農業拠点整備基本計画策定 令和3年度 あく里っ娘交流展示室改修（イトウM1～M3整備）、地域説明会実施（合意形成事業） 令和4年度 観光いちご園研修制度の創設及び募集、駐車場及び収穫体験園用地の確保 令和5年度 観光いちご園研修生確保に向けた就農相談会への参加 収穫体験農場（いがしらふぁーむ）の整備、開園（約1,600平米）、砂利駐車場の整備（約3,500平米） あく里っ娘拡充工事用地の確保（約540平米） あく里っ娘拡充工事設計業務							

1. 現状把握の部 （1）事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
6年度実績 ・観光いちご園研修生確保に向けた就農相談会への参加 ・収穫体験園場（いがしらふぁーむ）の拡充（約1,400平米） ・あく里っ娘の敷地拡張工事の実施 ・収穫体験園場用物置購入 ・収穫体験園場用水道設置工事 ・あく里っ娘防犯カメラ修繕工事 ・あく里っ娘トイレ改修工事設計業務 7年度計画 ・観光いちご園研修生確保に向けた就農相談会への参加 ・収穫体験園場の拡充 ・あく里っ娘直売スペース床修繕工事の実施 ・あく里っ娘トイレ改修工事に向けた再検討				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 井頭周辺農業拠点施設関連予算		千円	1,485	3,415	34,239	23,702	8,548
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
井頭観光いちごハウス、あく里っ娘（イトインスペース）、観光いちご園、収穫体験園場（いがしらふぁーむ） 観光客数（井頭エリア） 井頭公園、一万人プール、井頭温泉を含む				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 井頭観光いちごハウス棟数		棟	51	51	51	54	54
				イ あく里っ娘（直売所）売上		千円	200,866	206,980	213,527	205,158	215,000
				ウ 井頭観光いちご園入場料		千円	19,658	29,915	31,882	32,820	36,100
				エ 体験園場開園面積		?			1,600	3,000	3,000
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
井頭観光いちごハウスの増設、あく里っ娘（観光いちご園）を含めた周辺施設の賑わい創出（利用者の増加）				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 観光客数（井頭エリア）		万人	92	109	118	107	110
				イ 観光いちご園入園者数		人	13,661	17,107	18,040	16,118	18,000
				ウ あく里っ娘（直売所）利用者数		人	133,191	133,658	130,101	126,046	135,000
				エ イートインスペース使用人数（推計）		人	1,245	3,045	2,804	2,280	2,800
				オ 体験園場利用者		組			174	131	200
② 総事業費の推移				単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	1,131,322	1,531	3,041	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	8,548			
			一般財源	千円	1,485	2,283,533	32,708	20,661	0		
	事業費計（A）			千円	1,485	3,414,855	34,239	23,702	8,548		

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) あく里っ娘及び観光いちご園を含めた井頭周辺エリアは、県内外から多くの来場者が訪れているが、井頭公園、チャットパレスなどの周辺施設と更なる連携を図ることにより、一層魅力ある観光交流拠点となるポテンシャルを秘めている。 そのような中、農業エリアであるいがしらリゾートのうちアグリゾーンの整備を通じて、核となるいちごのほかに、農産物を通じた農村と都市との交流促進を図り、「日本一のいちごのまちもあか」及び「いちご王国栃木の首都もあか」としてブランド力向上に資することに繋がることから、市の施策に結び付いている。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) アグリゾーンの整備を通じて、いちごを核とした農村と都市との交流促進を図り、「日本一のいちごのまちもあか」及び「いちご王国栃木の首都もあか」としてブランド力向上に資することに繋がることから、公共関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) アグリゾーンの整備を通じて、核となるいちごのほかに、農産物を通じた農村と都市との交流促進を図り、「日本一のいちごのまちもあか」及び「いちご王国栃木の首都もあか」としてブランド力向上に資することに繋がることから適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) 今後一層、いがしらリゾートが魅力あるエリアとなるため、アグリゾーン整備を通じたいちごシーズン以外の集客コンテンツとして、体験農場などを拡充することにより集客を図る余地がある。また、リゾート各施設と一層連携を図り運営方法等について検討の余地もあることから、成果向上の余地がある。 また、あく里っ娘の利用者数が減少しており、利用者増に向け、向上の余地がある。 さらには、井頭観光いちご園の利用者数が、コロナ前の状況に比べ戻っていない状況もあり、向上の余地がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☒ 類似事業と統合・連携ができる（類似の事務事業名： ） ☐ 類似事業と統合・連携できない（類似の事務事業名： ） ☐ 類似事業はない (評価理由) 整備にあたっては、井頭周辺活性化事業を所管するプロジェクト推進課との連携が必要。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 整備内容の検討や整備手法の検討により、随時最小限の予算により事業を実施しており、削減余地がない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																								
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							
(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							